

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十九主日礼拝のしおり

## 2021年10月3日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編8編2,4-10節

主よ、わたしたちの主よ あなたの御名は、いかに力強く 全地に満ちていることでしょう。天に輝くあなたの威光をたたえます。・・・

あなたの天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたが御心に留めてくださるとは 人間は何ものなのでしょう。

人の子は何ものなのでしょう あなたが顧みてくださるとは。

神に僅かに劣るものとして人を造り なお、栄光と威光を冠としていただきせ  
御手によって造られたものをすべて治めるように その足もとに置かれました。

羊も牛も、野の獣も 空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

主よ、わたしたちの主よ あなたの御名は、いかに力強く 全地に満ちていることでしょう。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

### み言葉の部

#### 使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

### **祈り**

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたは御言葉によって私たちに信仰を与え、強めてくださいます。聖餐の恵みにあずかり、あなたの赦しをいただき、新たにいのちをいただきます。ここから私たちの新しい一週の歩みが始まります。

あなたは御言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

### **使徒書朗読：へブル人への手紙 1章 1-4節、2章 5-12節**

神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。御子は、天使たちより優れた者となりました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。・・・神は、わたしたちが語っている来るべき世界を、天使たちに従わせるようなことはなさらなかったのです。ある個所で、次のようにはっきり証しされています。「あなたが心に留められる人間とは、何者なのか。また、あなたが顧みられる人の子とは、何者なのか。あなたは彼を天使たちよりも、わずかの間、低い者とされたが、栄光と栄誉の冠を授け、すべてのものを、その足の下に従わせられました。」「すべてのものを彼に従わせられた」と言われている以上、この方に従わないものは何も残っていないはずですが、しかし、わたしたちはいまだに、すべてのものがこの方に従っている様子を見ていません。ただ、「天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、「栄光と栄誉の冠を授けられた」のを見ています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです。というのは、多くの子らを栄光へと導くために、彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の目標であり源である方に、ふさわしいことであったからです。事実、人を聖なる者となさる方も、聖なる者とされる人たちも、すべて一つの源から出ているのです。それで、イ

イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、「わたしは、あなたの名をわたしの兄弟たちに知らせ、集会の中であなたを賛美します」と言われます。

### **福音書朗読：マルコによる福音書 10章 2-16節**

ファリサイ派の人々が近寄って、「夫が妻を離縁することは、律法に適っているでしょうか」と尋ねた。イエスを試そうとしたのである。イエスは、「モーセはあなたたちに何と命じたか」と問い返された。彼らは、「モーセは、離縁状を書いて離縁することを許しました」と言った。イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。しかし、天地創造の初めから、神は人を男と女とお造りになった。それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」家に戻ってから、弟子たちがまたこのことについて尋ねた。イエスは言われた。「妻を離縁して他の女を妻にする者は、妻に対して姦通の罪を犯すことになる。夫を離縁して他の男を夫にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

### **讚美歌 313番**

1. この世のつとめ いとせわしく、人の声のみ しげきときに  
内なる宮に 逃れゆきて 我は聞くなり 主の御声を。
2. 昔主イエスの 山に野辺に、人をば避けて 聞きたまいし  
いと尊き 天(あま)つ御声、今なお響く わが心に。
3. 主よ、騒がしき 世のちまたに、我を忘れて いそしむ間(ま)も、  
ちさきみこえを 聞き分けうる 静けき心 与えたまえ。 **アーメン**

### **説教：「神が結び合わせてくださった」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日は私たちが当然と思っていることを改めて考えさせるイエス様のお言葉をいただいています。日常の中で、常識的に片付けていて何の疑問ももっていない事柄の中に、思い違いがあり、

聖書と食い違う思いをもっていることがあります。今日の箇所ではパリサイ派の人だけでなく弟子たちにさえにもそんな姿がうかがえます。

イエス様はこれからエルサレムに向かって旅をなさっています。何のためであるか、弟子たちに既に二回も明確に語ってこられました。イエス様はエルサレムで人々の手に渡され、殺されて、三日の後に復活すると予告されました。イエス様を愛して従ってきている弟子たちはイエス様が殺されるとか生き返るとか、何のことだろうかと理解に努めましたが、なかなかイエス様の言葉の意味がわかりませんでした。

弟子たちはイエス様を神の救い主であるとはわかっていました。しかし、イエス様はイスラエルの王国を立て直してローマ帝国の圧政から解放して下さるために神様から遣わされた救い主ではないか、と期待をしていました。そして、このような自分の考え、先入観を持っていたため、なかなかイエス様の言葉の本当の意味がわからなかったのです。それでもイエス様はエルサレムに向かって弟子たちと歩みを進めて行かれました。

その途上で、パリサイ派といわれる人々がイエス様に近づいてきました。パリサイ派の人々は、歴史的に、イスラエルの人々が二度と神様の掟を軽く見ることはないように、そのようにして民族の滅びを再び経験しないために、人々の間で律法を教え続けてきた先生方です。それで、旧約聖書の申命記 24 章という箇所を知っている質問をしました。

イエス様に家庭のあり方を尋ねています。モーセという預言者はその昔、妻に離縁状を渡すことで離婚を許可しているが、ほんとうに離婚は律法に適っているのか、と聞いています。イエス様を陥れるためのよく練られた質問です。だめです、ということモーセの教えを踏みにじっていると訴えることができます。いいです、ということ、では結婚生活は重んじなくてもいいのです、と言い返すことができます。いわばイエス様を試す質問でした。それも人々に教えておられる中で近づいてきてそのように挑戦しました。

離縁状という文書を用意してそれを妻に渡しさえしたら離婚はしてもよい、と神様はそんなに軽く結婚を見ておられるのでしょうか。いいえ、そうではありません。イエス様のお答えはパリサイ派の人々には驚きでした。

神様は当然家庭を大切にされます。結婚は人間の都合でなりたっている約束ではなく、そもそも神様が天地創造のはじめから人々が幸せに生きるためにさだめられた秩序です。神様は人を男と女に作られました。成長して、それぞれ親をはなれて結ばれ、ふたりは一体となります。これが結婚です。それは神様があわせてくださったものですから、本人を含め、人は離してはなりません。それはそのふたりの、そしてその家庭の幸せのためです。

では離婚はいけないうことでしょうか。もちろん、結婚前にはわからなかったいろんなことが結婚生活でわかってきます。結婚生活に区切りをつけたくて付ける人は少ないでしょう。自分にも相手にもそれなりの言い分があり、どちらかが絶対的にただしいということは滅多にありま

せん。一定の努力をしても相手も自分も変わらないでうまくいかなかったら、これ以上両者不幸にならないように、一時的にはとても苦しいけれども、わかれる、という選択があってもいいのではないかと、とお考えの人もいるでしょう。苦しいことです。

申命記の御言葉は、そのようにどうしてもうまくいかないときに、当時社会的にとっても弱い立場にいた女性たちの人生がそこで終わってしまわないように、その後の保証や再婚の可能性を残すための離縁状を夫に義務づけていたものでした。イエス様はあなたがたの心が頑固なのでこのような掟をモーセは書いたと言われました。もちろん神様が結婚生活によって幸いを得るようと、結婚の秩序を与えておられるのですが、パリサイ派の人々が引用した申命記 24 章の掟は、その上で人の苦しみに寄り添い、弱い立場の人々を助ける神様の掟なのです。

ファリサイ派の人々の質問は、この点を逆手にとったものでした。人の悲しさへの神様の配慮につけこんで、それなら離縁状を出しさえすれば離婚する許可が与えられているのですね、と尋ねています。

神様のみむねは私たちが幸せになることです。私たちが神様のおつくりくださった秩序を感謝をして歩むとき幸いを得ます。結婚には感情のたかまりももちろんありますが、同時にそこには将来をまだ知らないふたりが、神様に信頼し、ふたりで一体となって歩み、困難があればそれを共に乗り越えることで、互いに尊敬して立てあげあう豊かな関係を築くのではなかったでしょうか。結婚生活は夫婦が互いに弱いところを補い合い、強いところを喜び合う一体としてのふたりの歩みです。パリサイ派の人々はたしかに神の掟を詳しく見て学んでいたのですが、自分勝手な思い違いをしていました。そうではあっても、悲しみの中で離婚を選ばざるをえなかったことへの神様の配慮が全くわかっていません。

弟子たちも家に戻ってから同じ質問をイエス様にしたとも記されています。イエス様は再び丁寧に教えてくださいました。

さて、その後、イエス様のところに子どもたちが来ました。人々がイエス様に触れていただければと思って連れてきたのです。そのとき弟子たちは連れてきた人々を叱りました。イエス様はそのときそんな弟子たちに憤った、と記されています。強い言葉ですね。きっと弟子たちは忙しいイエス様の邪魔をしないようにと思って、イエス様に役立つと思ってそうしたのでしょう。しかしそうではありませんでした。イエス様は小さな子どもたちのことを大切になさっています。イエス様は言われました。子どもたちをわたしのところに来させなさい、さまたげてはなりません、神の国はこのような者たちのものです、子どものように神の国をうけいれる人でないと神の国に入れません。そうして子どもたちを抱き上げて祝福されました。

少し前に、弟子たちが互いに誰が一番偉いのか、と話し合っているのを知ったイエス様が、子どもを真ん中において抱き上げ、このような子どもを受け入れるものはわたしを、そして父なる神様を受け入れるのです、とおっしゃったことをお弟子たちは忘れていたのでしょうか。神

様は大人だけではなく子どもたちも含めて、その罪のために自ら十字架をおって苦しみ、死んでよみがえってくださったのです。イエス様はイエス様を信じる子どもたちを神の国にうけいれてくださいます。

使徒言行録2章20節には、神である主が招いてくださる者なら誰でも悔い改めて洗礼を受けることで罪の赦しと聖霊を受けることができます、言われています。神様は人々を、そしてその子どもたちを、そして遠くにいるすべての人々に語っています。

弟子たちの思い違いがあらわになりました。弟子たちが常識的に考えていたことが、イエス様が招いておられる子どもたちを妨げていたことがわかりました。それは、当然子どもなど数に入らない、とどこかで見下げていた弟子たちの罪です。子どもを連れてきた人々に叱った弟子たちからイエス様は子どもたちを守るために、弟子たちに憤ってお話になりました。

これらのことは、イエス様と弟子たちがエルサレムへ行く途上で起こったことです。パリサイ派の人々はイエス様を陥れてやろうと意地悪な質問をしたのですが、イエス様が彼らの質問にまっすぐにむきあって、ただしくお答えになりました。パリサイ派の人々は自分たちが専門にしていた神様の律法を、自分たちが自分勝手に都合よく解釈しており、神様の御心について思い違いをしていたことがかえって人々の前で明らかになってしまいました。このあと彼らはイエス様を十字架につけて殺そうとします。そしてイエス様はパリサイ派の人々のためにも罪の赦しと新しいいのちを与えようと、十字架に向かって歩んでくださいました。

弟子たちはイエス様の十字架への道を理解してませんでした。そしてイエス様のためにとと思って常識的に行ったことが意外にもイエス様の憤りを誘うことになってしまいました。自分たちの思い違いを知りました。このあともイエス様に従っていきます。弟子たちのために罪の赦しと新しいいのちを与えようと、十字架に向かって歩んでくださいました。

イエス様は私たちのためにも、罪の赦しと新しいいのちを与えようと十字架で死んでくださいました。そしてよみがえってくださいました。私たちはたくさんの思い違いをしています。神様が私たちの幸せのために与えてくださっている秩序を軽んじています。自分の気持ちがそれではおさまらない、世の中はそんなものではない、そんなことをしても誰にも理解されない、自分は自分の思いを大切にする、というのです。イエス様が大切にしておられる方々を私たちは軽んじます。自分より上、自分より下、というようにどこかで区別しています。冷たい心で接すること、忍耐には限りがあると言って愛することをやめること、この人はいてもいなくてもわたしにとって何もかわらないと判断していること、そのようなことに気付かず、それらは常識と思っていることがあります。

このように私たちは神様をおそれていません。神様を愛していません。神様に信頼していません。また、神様の大切になさっている人々を大切にしていません。

自分の姿にすぐに気付かない私たちです。そのような私たちの罪を担って、かわりにイエス様は十字架で死んで、私たちの自分でぬぐえない罪を赦してください、これから神様を愛し、隣人を大切に新しいいのちを与えてくださいます。そのいのちは成長し、さらに新しい次元で神様を愛し、心から隣人を大切にして創意工夫をしてさらに人々に役立っていくことを願っていきます。イエス様は忍耐をもって弟子たちを導いていきました。今週の私たちの歩みを主イエス様の愛とあわれみによって支えてくださいます。かづけてくださいます。人々の間へ押し出してくださいます。今週も、あなたがお出会いになる方々の幸せのためによりいっそう役立つ日々となります。神様の御心のなる一週の歩みとなりますように、お互いのためにお祈りに覚えましょう。

「従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」マルコ 10:9

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### 聖餐の部

#### 主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあって我らは生きる。※

#### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

#### 設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン

**配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番**

**赦しの宣言**

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

**主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節**

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあつて我らは歩む。 ※

**讃美歌 529 番 献金 献金感謝の祈り**

1. ああうれし、我が身も 主のものとなりけり、浮世だにさながら 天(あま)つ世の心地す  
※歌わでやあるべき 救われし 身の幸(さち) たたえでやあるべき み救いのかしこさ

2. 残りなくみむねに 任せたる心に、えも言えず妙なる まぼろしを見るかな。 ※

3. 胸の波 おさまり、心いと静けし。我もなく、世もなく、ただ主のみいませり。 ※

**アーメン**

**頌栄：讃美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神に ときわに絶えせず み栄えあれ み栄あれ **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**